



園だより 10月号

2019年9月26日
中野区立ひがしなかの幼稚園
園長 若槻 容子
<http://nk-higasinakano-k.a.la9.jp/>

『体を動かすことが大好きな子どもたちに』

園長 若槻 容子

空を見上げると爽やかな青空にうろこ雲。季節はもう秋。体を動かすことが気持ちのいい10月です。バレーボールやラグビーなどの世界大会が日本で開催され、迫力あるプレーが繰り広げられています。幼児はルールを理解するのは難しいかもしれませんが、保護者が応援する姿を見て、興味をもったり憧れたりして、スポーツはするのにも応援するのも楽しいと感じ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックへの期待につながってほしいと思っています。

スポーツというほどではありませんが、私は、鉄棒が好きな子どもでした。掌にまだ当時できた頑張り豆の名残があるほどです。鉄棒が好きな訳は、通っていた保育園に母が迎えに来て、家に帰る途中の公園の鉄棒で毎日遊んでいたからです。自営業の仕事で忙しかったので僅か数分間でしたが、大好きな母が見守ってくれている貴重な時間であり、それがきっかけとなって鉄棒が得意になりました。幼児期は「自分はできる」「頑張ってみよう」と自己有用感の高い時期です。その幼児期に身近な大人に見守られ励まされて、運動遊びの関心を膨らませ、体を動かすことが大好きになることがとても大事なことだと思います。「体を動かすことが大好き」という気持ちが、小学校以降の体育の授業への意欲につながります。

10月5日は本園の運動会が開催されます。今、その運動会の取り組みが日常の遊びの中で展開されています。3歳児は、初めての経験で「運動会」のイメージももてていませんが、かけっこをするときは、弾けるような笑顔。自分の力を精一杯出す心地よさを身体で感じています。4歳児は、お祭りごっこで「わっしょい、わっしょい」と威勢のいい掛け声。その遊びが運動会の取り組みにつながっています。友達と一緒にやるから楽しい…その嬉しさが元気な掛け声となって、運動会の会場にも響きそうです。そして、年長組の5歳児。自分たちの競技はもちろんのこと、係の仕事も担い、まさに主体的に運動会を進めていこうとしています。

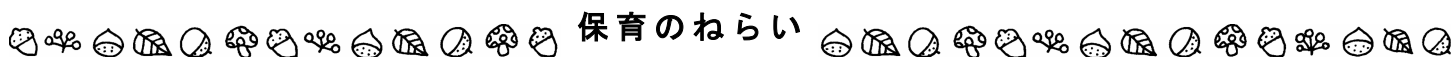
運動会に向けて「運動的な活動」に多く取り組むだけでなく「みんなで力を合わせることの嬉しさや大切さ」「頑張ればできることが増える喜び」「諦めないで最後まで頑張ろうとするねばり強さ」など様々なことを経験していきます。友達と刺激し合い、時に競い、時に支え励まし合って、「頑張る自分」を出せますように。保護者や地域の皆様には、子どもたちを見守り、応援で盛り上げてくださいますように。運動会の会場は、例年と同じく中野東中学校の校庭（体育館）を練習からお借りしています。快く貸していただき、当日はボランティアの中学生も活躍します。保護者の方、地域の皆様の支えをいただきながら、子どもたちの心に残る運動会の取り組みにしていきたいと思っています。

き せ つ の は な し 「 霜 降 」

涼しくなる日も増えてきて、いつのまにか秋らしくなっています。10月も半ばを過ぎると、朝晩に冷え込み、日が短くなったことを実感することでしょう。今年の「霜降」は10月24日です。「霜が降りた」と聞くと、冬まっさかりな感じもしますが、60年前は初霜が今より一ヶ月以上も早かったようです。その、初霜が降りる時期を二十四節気で「霜降」と呼び、木々は紅葉し、人々はコートや暖房器具を準備して、冬支度を始めます。

本格的な冬に備えて、しっかりと栄養をとっていきましょう。





保育のねらい

<3歳児> ○同じ場にいる友達と遊んだり、学級のみんで活動したりする中で、教師や友達の様子を見ながら自分なりに動く心地よさを感じたりする。

○秋の自然に関心をもち、見たり触れたりして親しむ。

動物になってかくれんぼをしたり、弁当を用意してピクニックごっこをしたりするなど、同じ遊びをしている友達と一緒に動くことを楽しむ姿が見られます。運動会での「みんなでやって楽しかった」という経験を土台にして、楽器遊びや簡単な鬼遊びなどの新しい遊びにも関心をもち、自分なりの動きを出せるように援助していきます。

また、園庭の身近な自然との触れ合いや新宿御苑の遠足を通して、秋の自然を感じたり、見たり触れたりして遊ぶ楽しさを感じられるようにしていきたいと思います。



<4歳児> ○やりたいことに向けて遊びながら、友達の動きに気付いたり刺激を受けたりする。

○学級のみんで動くことを楽しみながら、全体の中で自分の動きを出していく。

○季節の移り変わりを感じ、栽培物の生長や収穫を喜んだり、自然物に触れることを楽しんだりする。

友達の動きに関心をもち、「おぼけやしき、入れて」と友達のしている遊びに自分から入っていったり、「かくれんぼする人？」と誘ったりする姿が見られます。また、学級のみんでリズムを踊ったりだるま落とし（的当て）をしたりして、一緒に取り組む楽しさを感じています。簡単なルールのある遊びやみんなの知っている話を基にした遊びを投げ掛け、運動会の経験や遠足などの共通体験を生かしながら友達との関わりをさらに楽しみ、学級のつながりを感じていけるようにしていきます。

また、冬野菜の栽培を始めたり、芋掘り遠足に行ったりして、自然と触れ合いながら生長や収穫を喜べるような機会を増やしていきます。



<5歳児> ○自分のめあてをもって取り組み、力を発揮していく。

○園全体や学級で行う活動や行事を友達と一緒に進めていく楽しさを味わい、学級のつながりを深める。

運動会に向けて「もう1回リレーやろうよ」と繰り返し走ったり、係活動で「はじめの言葉を大きな声で言おう」と自分の役割を受け止めてがんばろうとしています。また、チームや学級全体で作戦を考えたり、声や動きを合わせたりしようとするなど、友達と共に進めようとする姿が見られます。“自分たちの運動会”として、自分なりのめあてをもって取り組んだり、学級の友達と力や気持ちを合わせたりして、達成感や学級としてのつながりを味わえるようにしていきます。

さらに、その経験を土台に、やりたいことに向けて自分の力を出したり、友達の姿を刺激に挑戦したりできるように援助していきます。遠足などの行事では、見通しをもって必要なことを受け止めて動いていけるようにし、5歳児としての自覚と自信を高めていきたいと思います。

